

2024年3月31日復活日

イザヤ書25章6－9節

使徒言行録10章34－43節

マルコによる福音書16章1－8節

イースターおめでとうございます。今年もイエス様の復活を皆様一緒に喜べますことを心から神様に感謝いたします。

本日の旧約聖書は、イザヤ書25章6節から9節です。この個所は、新共同訳では「神の驚くべき御業」と小見出しが付いた1節からの10節 a の一部となっていました。新しい聖書協会共同訳では、1節～5節の小見出しが「横暴な国々への裁き」、そして6節から10節 a までの小見出しが「主の山における祝宴」と分けるようになっていました。聖書日課としての個所は変わりませんが、本日の個所は、その「主の山における祝宴」と題される部分です。

1節から5節までに語られている、驚くべき御業とは、これからイスラエルの南ユダ王国を滅ぼそうとしている強大なバビロニア帝国、その帝国が後に主なる神様によって滅ぼされるということです。このことを語っている時点では、イスラエルの南ユダ王国は健在でから、すべて未来の事柄です。

6節から10節 a の小見出しで「主の山における祝宴」と示されている事柄とは、バビロニア帝国の滅亡の後、「**万軍の主はこの山ですべての民のために祝宴を催される**」（イザヤ25：6）ということです。「この山」とは、エルサレム南東にあるシオンの山のことでしょう。かつてダビデが祭壇を築いてから、聖なる山とされている山のことです。シオニズムの語源です。そこで祝宴を開くとしているのですが、そこには、「**すべての民に**」と書かれています。それは、主なる神様が、イスラエルという枠組みを超えて、ご自身の愛と恵みの対象とするということです。それだけではありません。「**死を永遠に呑み込んでくださる**」（イザヤ25：8）と、イエス様の復活や永遠の命という事柄を暗示させる表現があります。実際、「葬送の式」の旧約日課はここを用います。イザヤは、南ユダを滅ぼしたバビロニア帝国、たとえそのような帝国であっても、主なる神様は滅ぼす。そしてその出来事を通して、主なる神様は、その愛がイスラエルに限定されず、すべての民に向けられていることを示す。そして、そのすべての民は、主なる神様が死をも滅ぼしてくださることを、いつの日か経験するがゆえに、「**見よ、この方こそ私たちの神。私たちはこの方を待ち望んでいた。この方は私たちを救ってくださる。この方こそ私たちが待ち望んでいた主。その救いに喜び躍ろう**」（イザヤ25：9）と宣言するのだと語るのです。

このイザヤの預言の言葉は、まだ王国が健在であるときのイスラエルの南ユダ王国の人々にとっては、理解が困難な事柄であったでしょう。また、理解しようとしたとしても、バビロニア帝国を滅ぼすのであれば、なぜ王国滅

亡前でないのかと疑問に思うでしょう。そのように思う背景には、主なる神様は、選ばれた自分たちイスラエルの神であり、自分たちだけを守ってくださる方という信仰があると思います。そして、この世界のいのちがすべてであって、死はすべて終わりであるという死生観もあると思います。しかし、もしイスラエルの人々が、自分たちに対する主なる神様の選びを、ご自分の造られたすべての被造物を大切にしようとおられる、主なる神様の愛を証するためと理解するならば、預言者イザヤの言葉は理解できるのです。

ただし、この預言者イザヤの言葉は、そのあとのイスラエルの歴史において、すぐに実現する事柄ではありませんでした。わたしたち教会の信仰において、イエス様の十字架と復活を実現しました。イエス様の十字架と復活の意味は、人間のありとあらゆる思いをイエス様が十字架を通して受け止めてくださり、それらが人間の価値観で善であっても悪であっても、それらを超えて、主なる神様のすべての人へ対する愛の方向へと導くことであるからです。

本日のイザヤ書に関連させて言うならば、脅威であるバビロニア帝国から、主なる神様がイスラエルの南ユダ王国を徹底して守ってくださること、それはイスラエルの南ユダ王国の人間的価値観から言えば善です。また、たとえ滅ぼされたとしても、その滅ぼした相手も滅び、王国が復興することも、イスラエルが復興することが善です。そして、それらの滅ぼす、滅ぼされるという行為は、死はすべての終わりであるという価値観によって成立しています。しかし、イエス様は、様々な人間の思い、つまりイエス様に従った人、従えなかった人、イエス様に敵意を持っていた人、それほどイエス様に関心はないが驚く奇跡があったら信じようと思うぐらいの人、それら全ての人の思いを十字架の死を通して受け止めてくださったのです。そして、復活を通して、それらの思いが大きな価値のない事柄であることを示されたのです。最も価値ある事柄とは、主なる神様がイエス様への信仰を通して与えてくださる永遠の命であるからです。これらを通して、主なる神様は、いつの時代でもどこにおいて、イエス様を信じるすべての人を愛しておられることを示されたのです。それが福音の内容です。

今地上で様々な戦いが行われています。それらは自然現象ではなく、人間がその思いから派生させた事柄です。わたしたちの国においても、意見の異なる人の暗殺を喜び、またその葬儀にまで反対するような人間の思いもあります。そのような人間の思いが正義を主張する限り、この世界から悲しい戦いも出来事もなくならないかもしれません。しかし、だからこそ、イエス様は、十字架の死でそれら人間の思いを全て受け止めて下さった、そして復活を通して、すべての人が主なる神様の愛に基づいて生きる方向へと変えてくださった、そのことをイエス様の復活をお祝いする本日、改めて心に刻みたいと思います。十字架にかけられたイエス様の復活を信じる人がいる限り、世界中が平和へと向かう道は決してなくならない、そのことを示し続けていきたいと思っています。